

W B C 検査結果概要

相馬市でのW B Cによる内部被ばく検診結果 (12)
令和3年度

相馬市でのWBCによる内部被ばく検診結果(12)

令和5年2月1日

結果概要

1. 検査時期：令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

2. 受診者：相馬市民 2,984人（大人723人、子供 2,261人）

3. 検査機器：キャンベラ社製ホールボディカウンター（相馬中央病院、公立相馬総合病院）を使用し、セシウム134および137に由来する放射線を測定しました。機器の測定検出限界は、約4Bq/kg（250Bq/body）です。今回の結果は、相馬中央病院および公立相馬総合病院での測定結果をまとめて集計しています。子供の集計には、令和3年9月から12月に行われた学校検診での検診結果も含めています。

4. 検診結果の説明

①**図1-1、1-2**：今回の測定で放射性セシウムが検出された方は、大人3名で、子供の検出者は0名でした。セシウムが検出された方の中には未検査の山菜や自家製の野菜を食したことが原因と考えられる方がいました。微量の検出はありましたが、20Bq/kg以上を検出した方はいませんでした。

②**図2-1、2-2**：平成24年度から令和3年度の月別受診者数と年度別のセシウム検出率の推移をグラフで表しています。セシウムの検出率は、昨年度に続き令和3年度も低い検出率となっています。

③**図3**：学校で集団検診を実施していることから、6～15歳の受診者数が多くなっており、次いで60歳以上の受診者が多く見られます。一方、16～39歳までの受診者数が低くなっています。

④**図4-1、4-2**：アンケートの結果、内部被ばくの原因として気になる食材について子供と大人の割合の差はないです。食材別で見ると、キノコ類について気にしている方が多い傾向にあります。全体的に平成24年度に比べて不安度は低くなっています。

⑤**図5-1及び5-2**：食材は、多くの方がスーパーで流通しているものや、検査済の地元または家庭でとれた食材を摂取されており、未検査の食品の摂取を続けている方は少ない状況です。これは子供と大人で傾向は大きく変わりません。

⑥**図6-1及び6-2**：水に関しては、飲料水は市上水道とミネラルウォーターを大多数の方が使用されているのに対し、調理水は市上水道を使用されている方が多い傾向にあります。これは子供と大人で傾向は大きく変わりません。

⑦**図7-1及び7-2**：受診者の98%が今後も検診が必要と回答し、その中で希望者のみ年一回実施してほしいという回答が一番多いことがわかりました。相馬市では、今後も年一回の受診を勧めることとし、WBCでの内部被ばく検診業務を続けていきます。

【結果の総括】

令和3年4月から令和4年3月末までの内部被ばく検査集計をご報告致します。

内部被ばく検査でのセシウムの検出は、子供では検出がなく、検出された方でも国が定める年間目標値の1mSv/年よりも非常に低い値となっており、現在の相馬市で生活をする上で慢性的な内部被ばくが問題になるレベルにはありません。

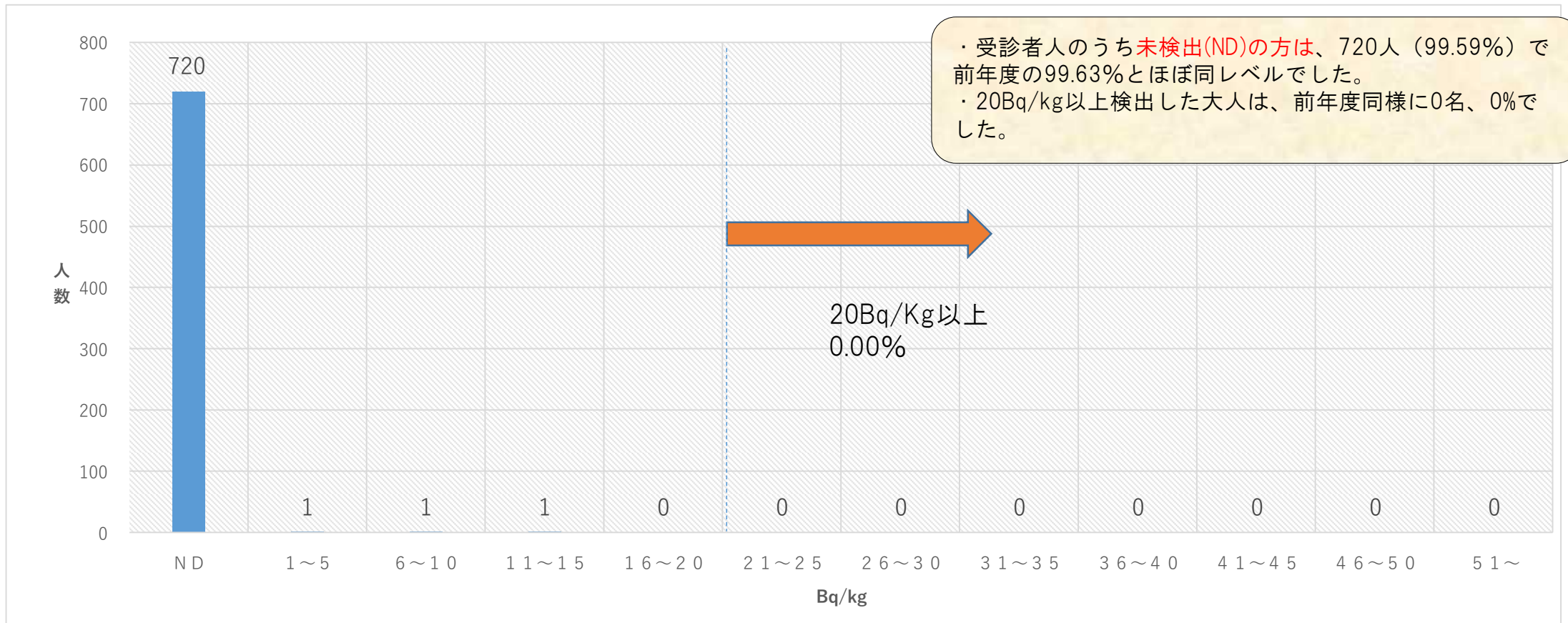
食品についても、産地を選ばずとも、地元産の食品・水道水などの安全性が十分に高いことが内部被ばく検査からも裏付けられています。この状況は震災後長期にわたって維持されています。

令和4年3月11日で、東日本大震災から11年を経過しましたが、市では、各種放射線検査体制を維持し、検査結果の公表を行いながら、市民の不安解消や放射線に関する正しい情報発信を継続して参りたいと考えております。

相馬市長 立谷 秀清

図 1-1

セシウム134、137の体内放射能量別の被験者数
 通期R3/4/1~R4/3/31 (n=723) 大人(高校生以上)



放射性セシウム量 (Bq/Kg)

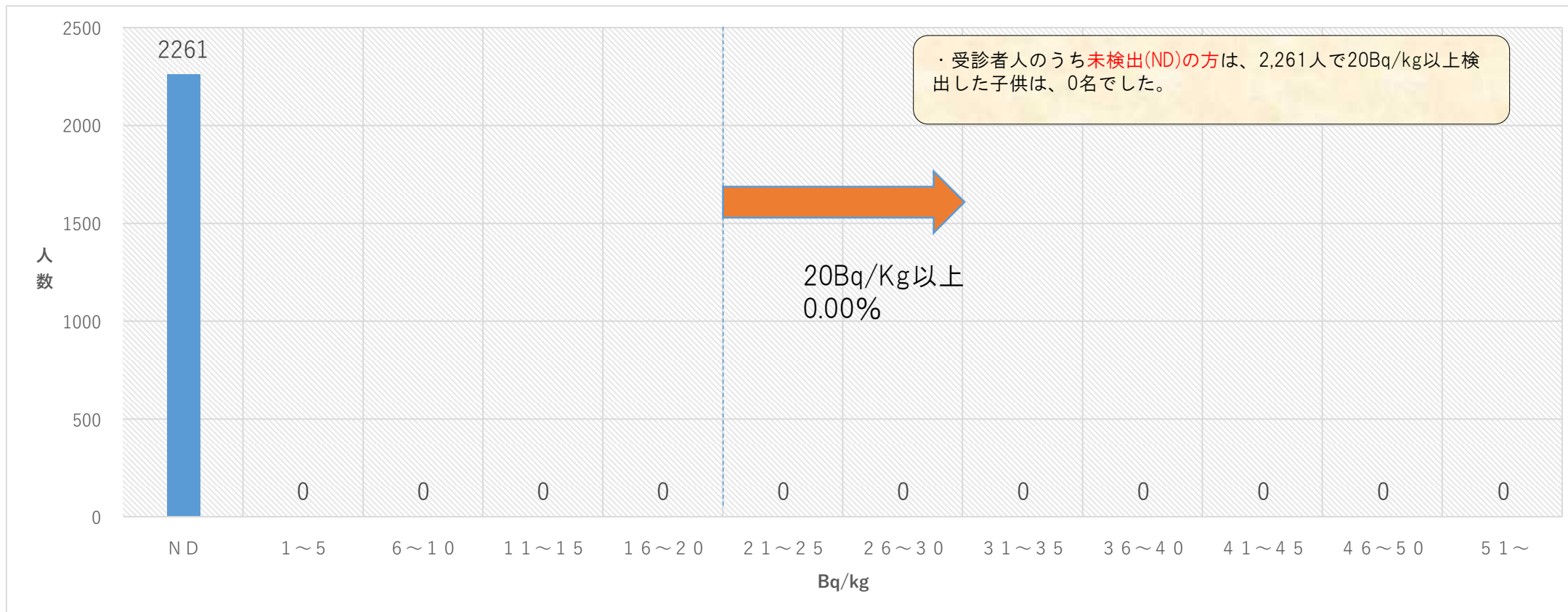
ND	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~
720	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
99.59%	0.14%	0.14%	0.14%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

検出限界は250 Bq/body (体重60 Kgの方で4 Bq/Kg程度) です。

図 1-2

セシウム134、137の体内放射能量別の被験者数

通期R3/4/1~R4/3/31 (n=2261) 子供(小学生以上中学生以下)



放射性セシウム量 (Bq/Kg)

ND	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~
2261	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

検出限界は250 Bq/body (体重60 Kgの方で4 Bq/Kg程度) です。

図2-1

月別受診者数の推移

平成24年6月～令和4年3月

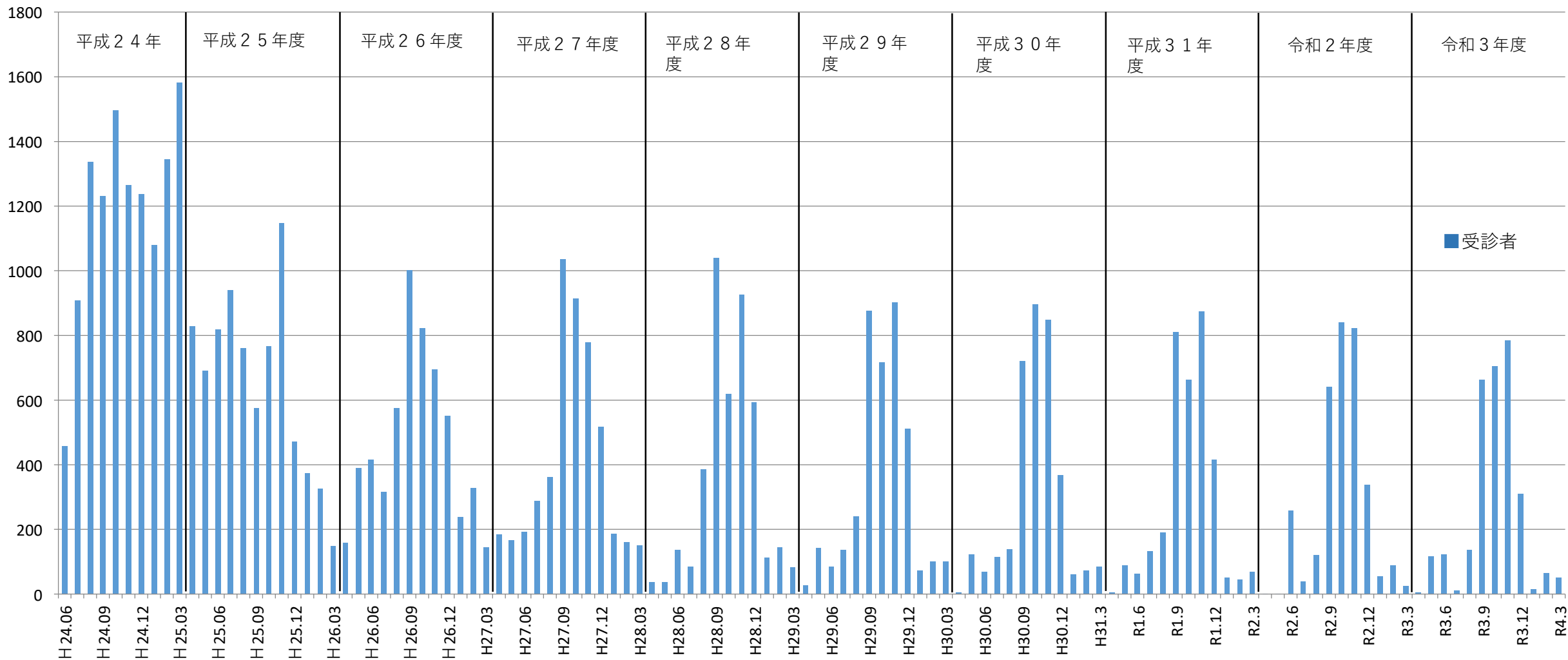
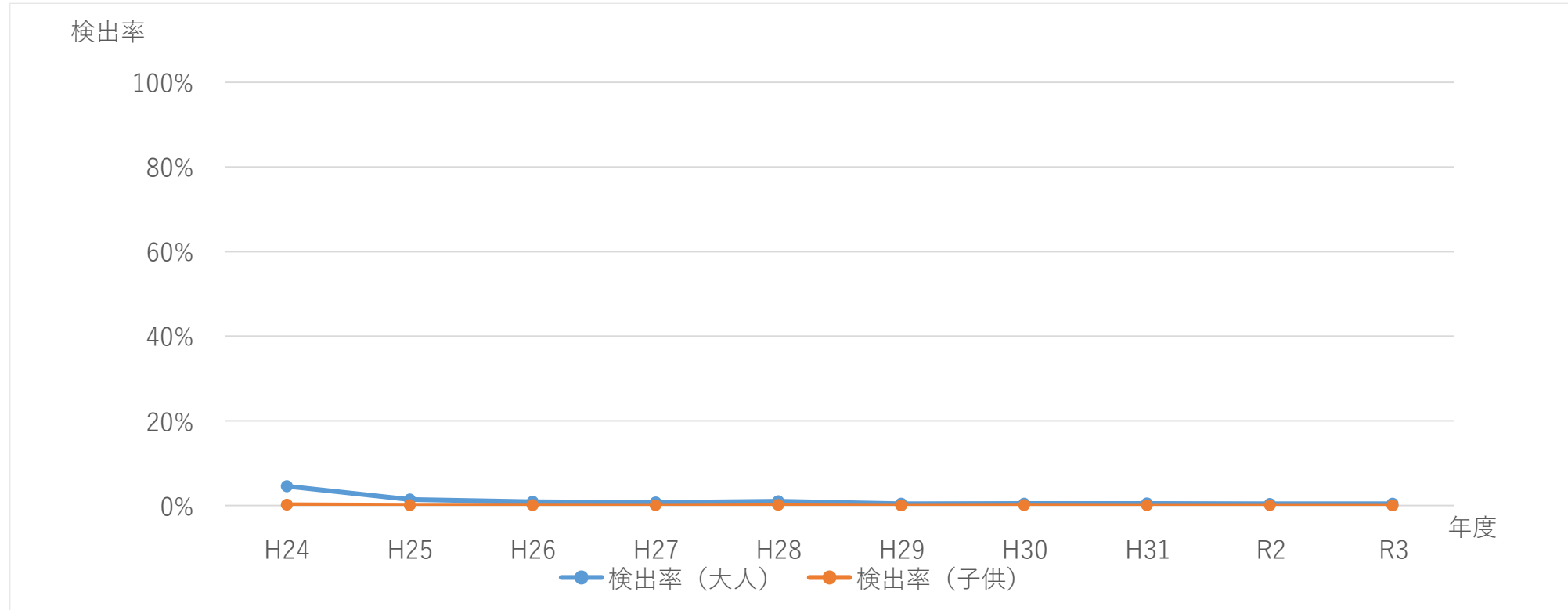


図 2-2

年度別セシウムの検出率の推移

平成24年6月～令和4年3月

一般+学校検診



※検出率は、セシウム134またはセシウム137のいずれか、または両方が検出限界以上の場合を「検出」としています。

※大人は高校生以上、子供は小学生以上中学生以下と定義しています。

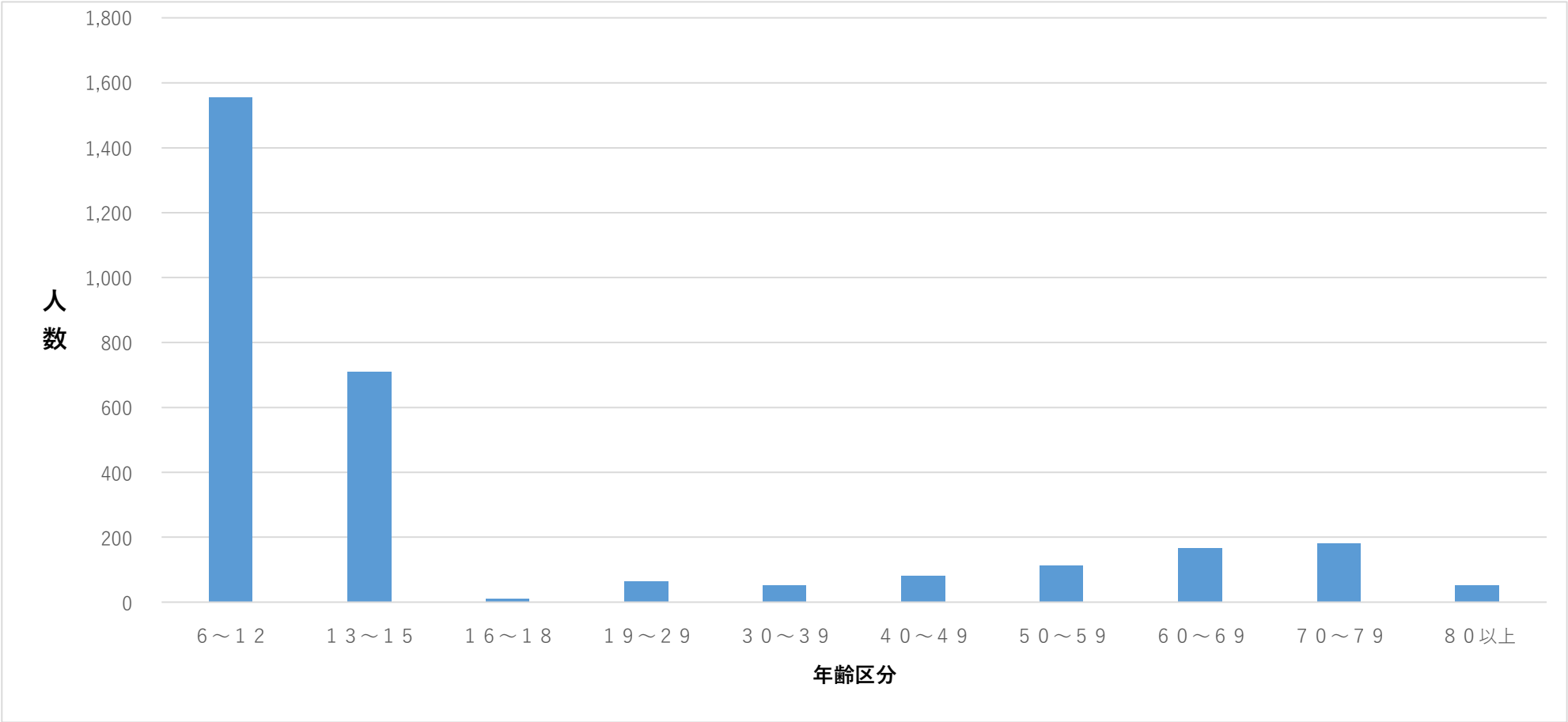
※平成24年度は年度途中から検査が開始されたため、6月から3月までの10か月間の集計が基になっています。

図 3

年齢別受診者数

令和3年4月1日～令和4年3月31日

一般+学校検診



年齢区分	6~12	13~15	16~18	19~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
受診者数	1,555	710	11	64	53	80	112	167	181	51

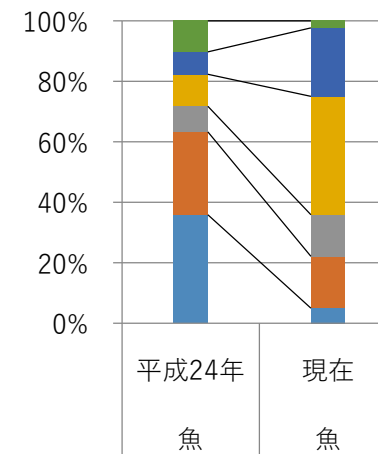
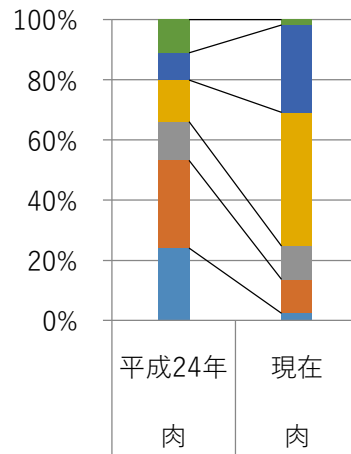
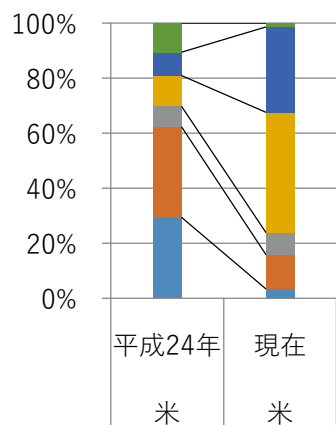
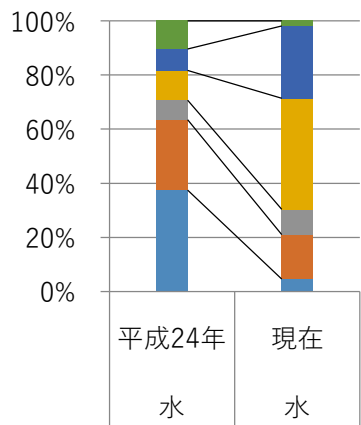
内部被ばくの原因として気になる食材

一般+学校検診

図 4-1

大人

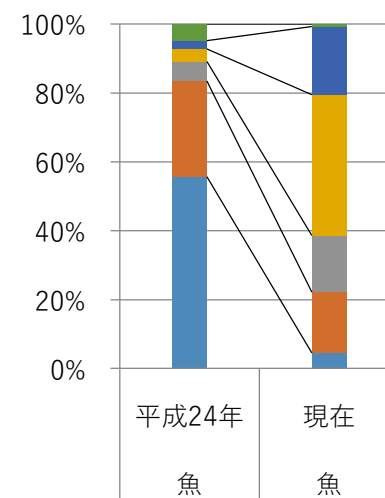
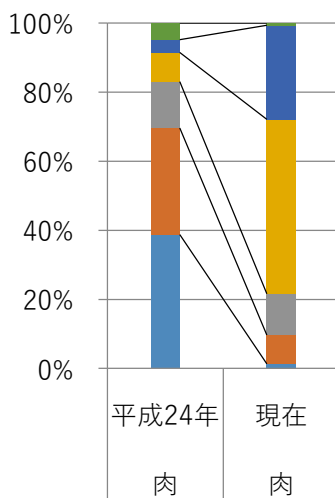
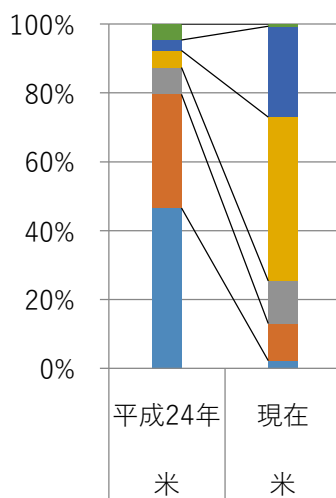
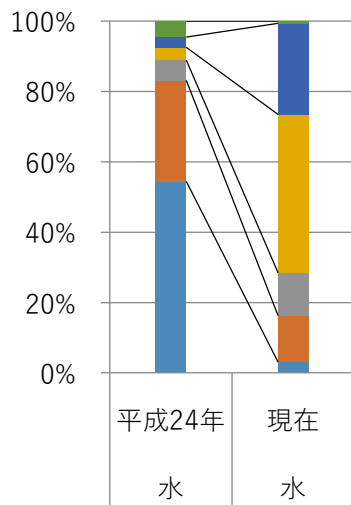
頻度



- 6.回答なし
- 5.全く気にしていない
- 4.あまり気にしていない
- 3.どちらともいえない
- 2.気にしている
- 1.とても気にしている

子供

頻度



子供は小中学生
(6歳から15歳)
大人は高校生
(16歳以上) 以上

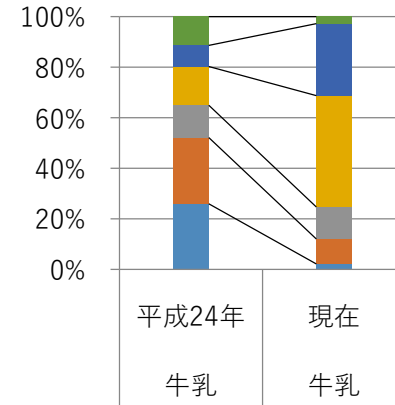
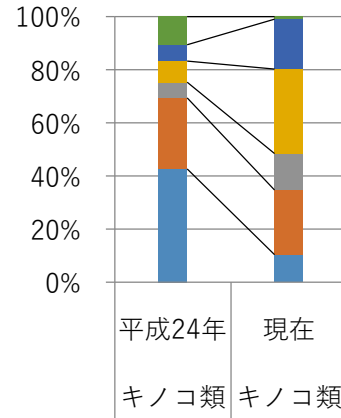
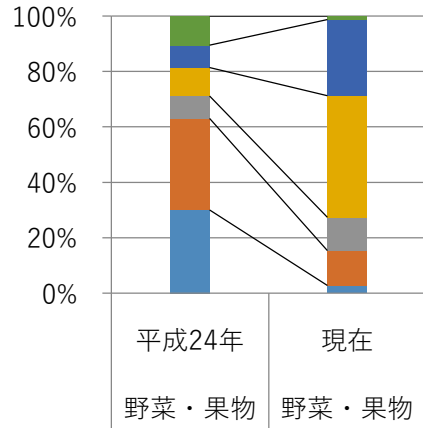
内部被ばくの原因として気になる食材

一般+学校検診

図 4-2

大人

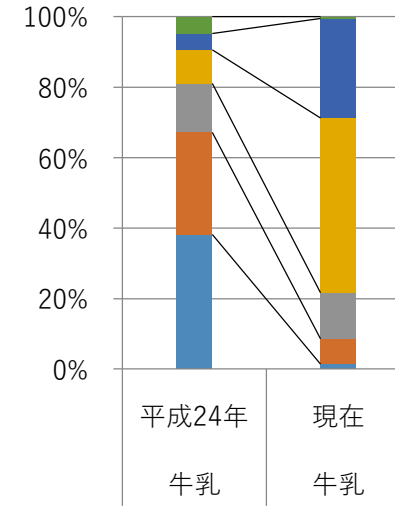
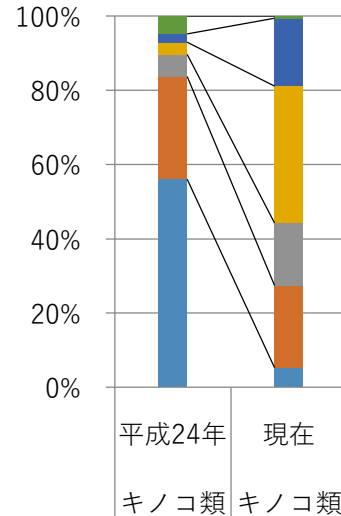
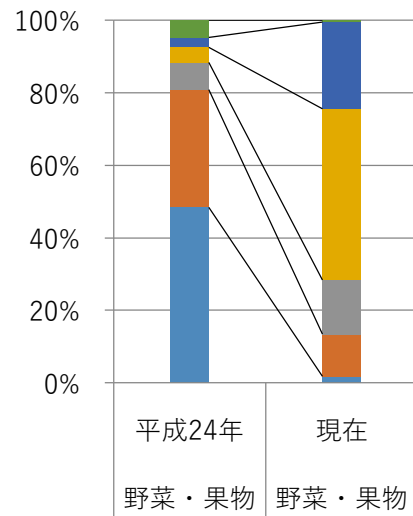
頻度



- 6.回答なし
- 5.全く気にしていない
- 4.あまり気にしていない
- 3.どちらともいえない
- 2.気にしている
- 1.とても気にしている

子供

頻度



子供は小中学生
(6歳から15歳)

大人は高校生
(16歳以上) 以上

子供は小中学生（6歳から15歳）、
大人は高校生（16歳以上）以上です。

図 5-1

食べ物の調達方法

一般+学校検診

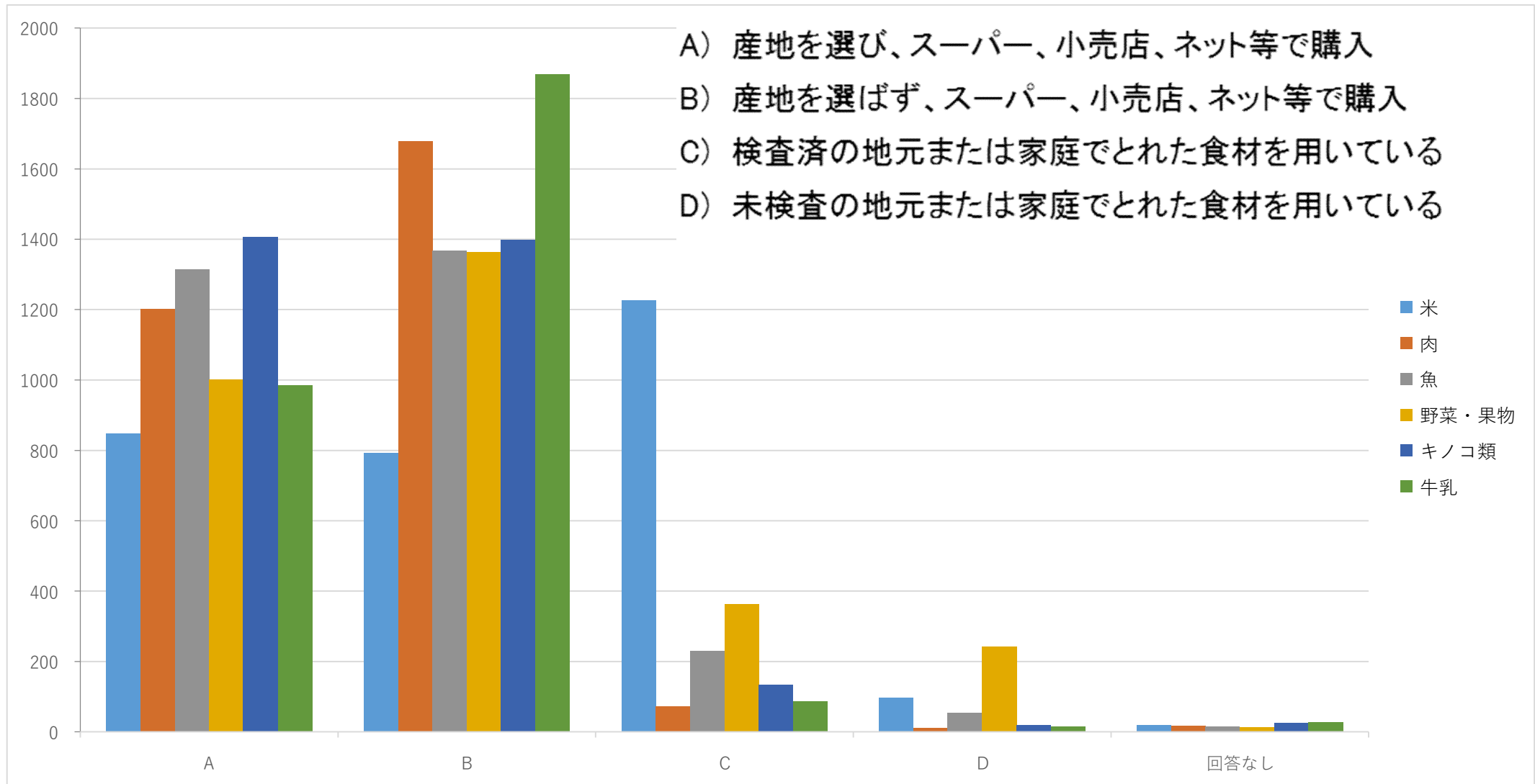


図 5-2

食べ物の調達方法

学校検診のみ

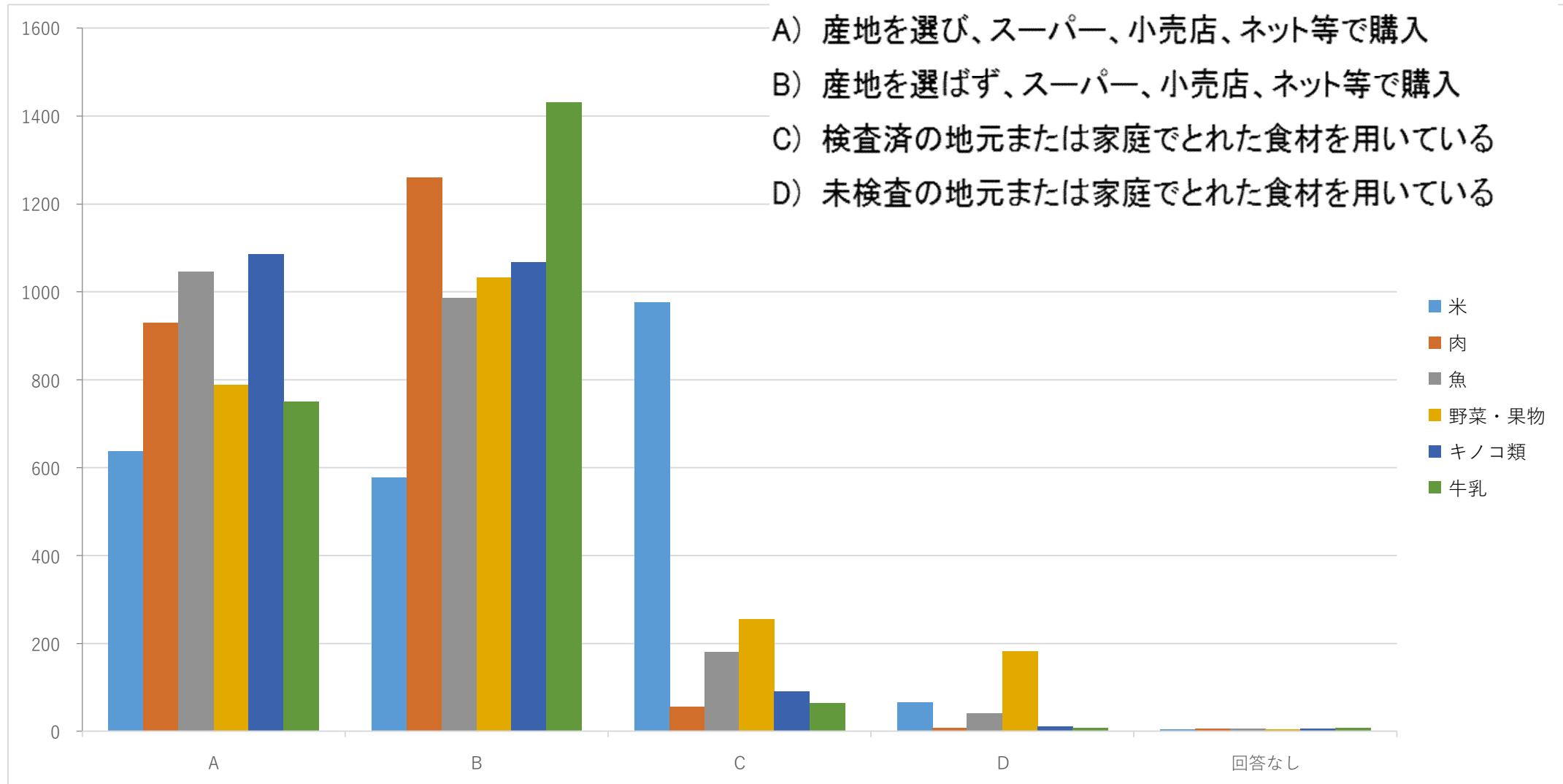


図 6-1

自宅の飲料&調理水の種類

一般+学校検診

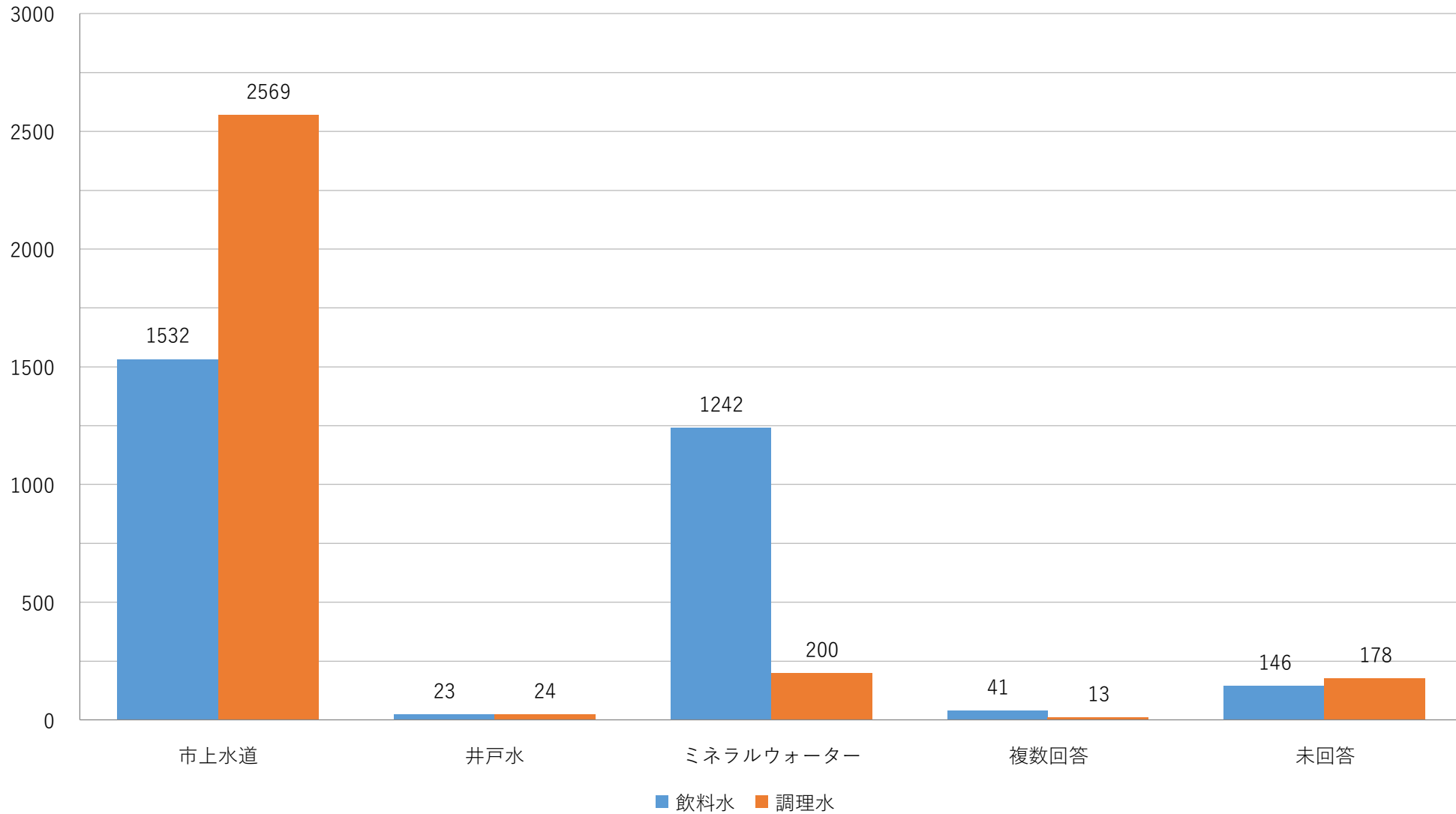
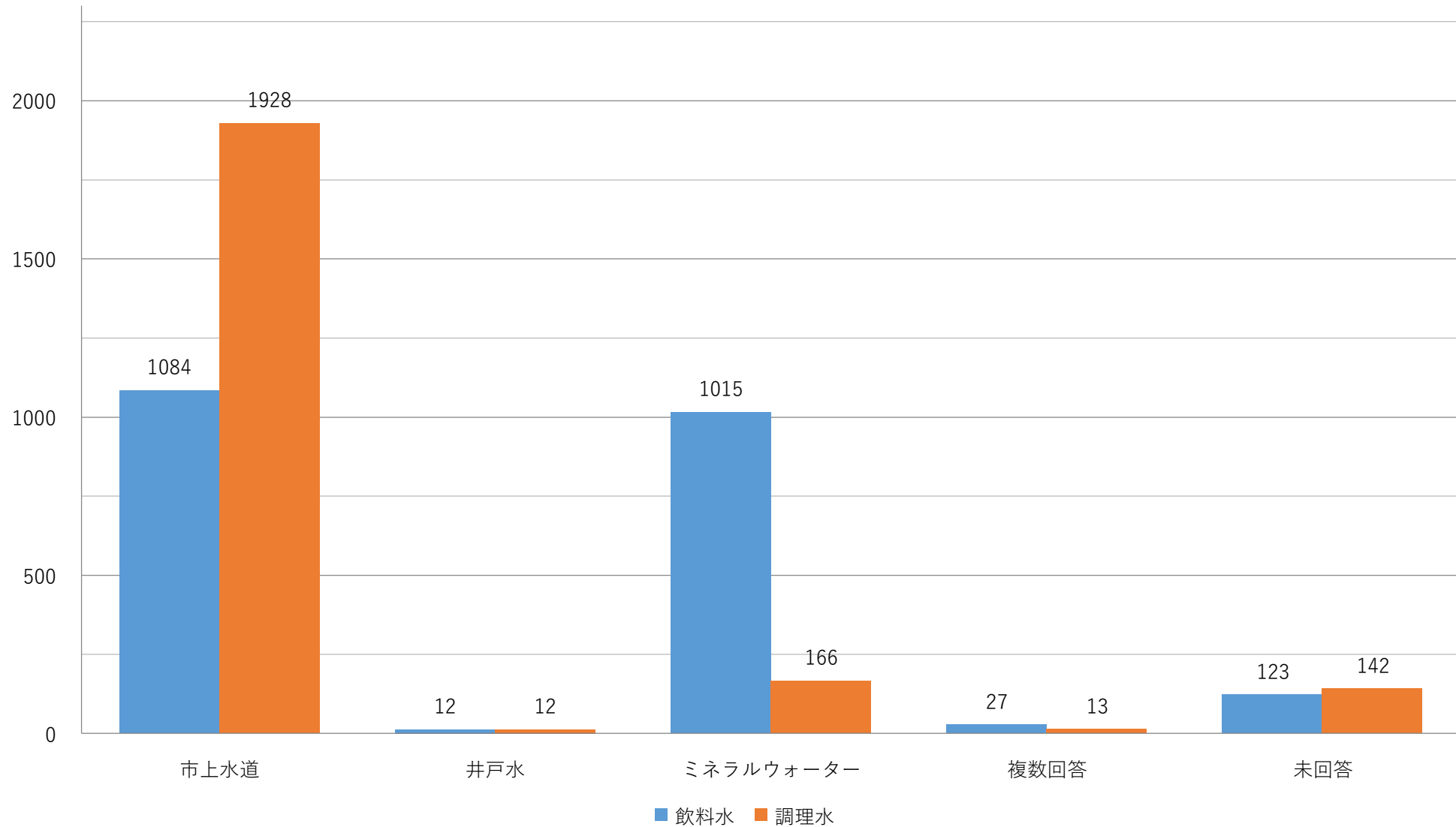


図 6-2

自宅の飲料&調理水の種類

学校検診のみ



今後のWBC検診について

一般+学校検診

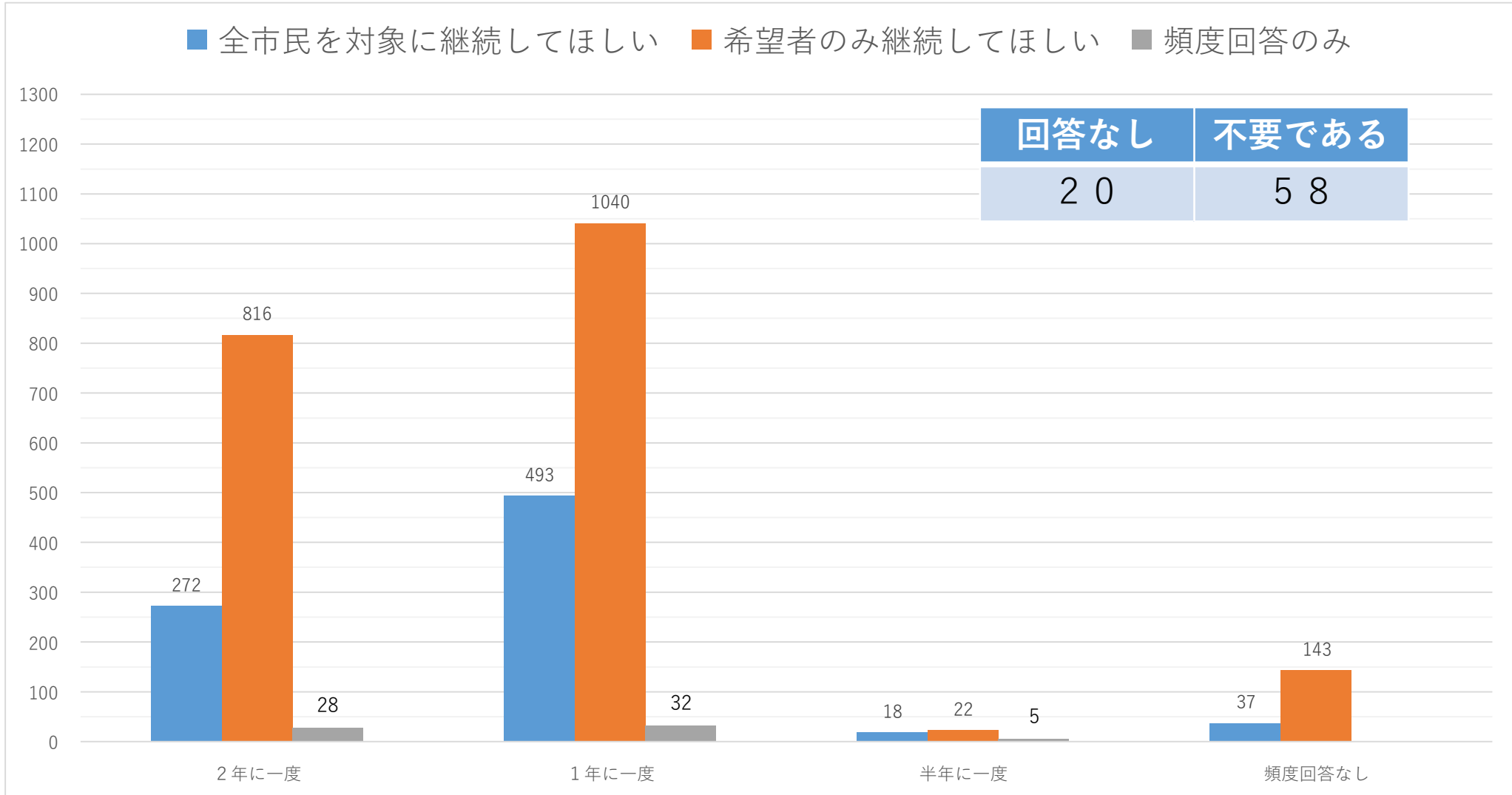


図 7-2

今後のWBC検診について

学校検診のみ

